

健康

悪性黒色腫

質問

58歳女性です。最近、足底にほくろのような黒いできものがあるのに気づきました。近くの病院を受診したところ、悪性黒色腫(メラノーマ)の可能性があるので、大きな病院に行くよう言われました。悪性黒色腫はどんな病気ですか。



村尾 和俊

徳島大学病院
皮膚科 准教授

回答

悪性黒色腫は皮膚がんの一種です。メラノサイトという細胞ががん化したものです。メラノサイトは皮膚の色素を作る働きのある細胞です。このため悪性黒色腫も黒くなります。

ほくろに似ていることが多く、「ほくろのがん」とも呼ばれます。

進行が早く、予後の悪い皮膚がんです。このため、早期発見による適切な治療が重要です。

発症頻度には人種差があり、白人に多い病気です。日本人は10万人に1、2人の割合とされています。

悪性黒色腫の多くは黒褐色の色素斑もしくは腫瘤として発症します。

皮膚がんは直接目で見ることはできません。内臓のがんとは異なり、早

進行早い「ほくろのがん」



期発見が比較的容易なものです。

しかし、悪性黒色腫は、ほくろと間違われ、黒い腫瘍ができて心配ないと考えられてしまいがちで、病院の受診が遅れる可能性があります。

悪性黒色腫には末端黒子型、悪性黒子型、表在拡大型、結節型の4タイプがあります。

プがあります。

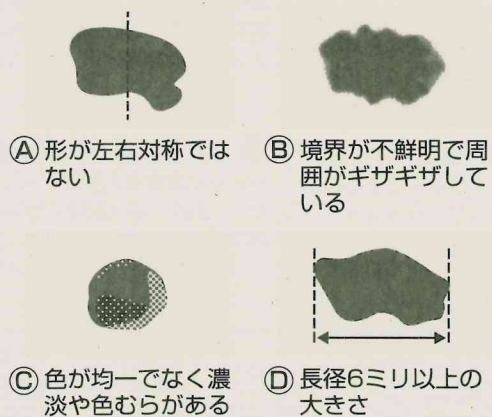
日本人は末端黒子型が最も多く、発生する頻度が高いのは足底や手足の爪の周囲です。

では、どんな黒色腫瘍を悪性で疑うのか。見分け方のポイントは4点あり、「ABCDルール」と呼ばれています。

Aは形が左右対称でない、Bは腫瘍の境界が不鮮明、Cは濃淡や色むらがある、Dは長径6mmを超えていると定義されています。

ABCDの特徴を示す黒色病変が一つでもある場合は皮膚科を受診しましょう。

黒色腫の悪性を疑う特徴



四つの特徴で見分ける

末端黒子型黒色腫は、四つの特徴に加え、色素分布がほくろと異なりまです。ほくろは色素が指紋の溝の部分に強く沈着します。一方、悪性黒色腫は指紋の丘の部分の色素が強くなります。

この色素の観察はダーモスコピーという拡大鏡を使ったダーモスコピー検査をします。患者の体に負担がなく、簡単に有用な検査です。さらに診断を確定するには腫瘍の組織を採取し、病理検査を行う必要があります。

悪性黒色腫の治療は、腫瘍を十分に切除し、所属リンパ節の転移があればリンパ節を取り除きます。

また、遠隔転移があれば化学療法を行います。以前は進行した悪性黒色腫に対する有効な化学療法はほとんどありませんでした。しかし、近年は免疫チェックポイント阻害薬などで、少しずつ進行を遅らせることが可能になっていきます。

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉



(平日午前8時半から午後5時まで)